

IT資産管理に潜むリスクと課題

— 今、企業に求められるIT資産管理の高度化 —

従来、IT資産管理の目的は財務視点での棚卸しが中心であった。しかし、昨今の経営・ITの環境変化に伴いコンプライアンス順守、情報セキュリティ強化、ITコスト適正化といったITガバナンスの視点からIT資産管理が求められている。本稿では、複雑化するIT資産管理の現状とさまざまなリスクの増加、さらに企業としてどのように対応していくべきかを考察する。

野村総合研究所 システムコンサルティング事業本部
ITマネジメントコンサルティング部 システムコンサルタント

よねづ たかゆき
米津 貴之

専門はIT資産管理の最適化を通じたITコスト削減施策の立案支援



経営・IT環境の変化に伴いIT資産管理の目的は拡大している

従来、IT資産管理は財務視点で固定資産を把握することに主眼が置かれてきた。しかし今日、グローバル化、事業基盤の強化・再編（M&A）の加速といった経営環境の変化に伴う「IT資産管理範囲の拡大」が生じている。さらに、IT環境の変化によって「把握しにくいIT資産」が増加している。

例えば、クラウドサービスの浸透によって、部門独自によるSaaS（Software as a Service：ネットワーク経由で利用するソフトウェアまたはその仕組み）の導入、従業員が勝手に持ち込んだ機器やソフトウェアの利用（シャドーIT）、サーバー環境の仮想化によるソフトウェアライセンス体系の複雑化な

どがその一例である。

一方で、ソフトウェアベンダーは、大手ベンダーを筆頭にライセンス監査を強化するようになった。複雑化するライセンス体系と管理不足により、これらベンダーからの指摘でライセンス違反が発覚するケースもある。

IT資産管理の目的と想定されるリスク

IT資産管理の目的は大きく3つ挙げられる（表1参照）。

- (1) コンプライアンスの確保
- (2) 情報セキュリティの確保
- (3) 適正なITコスト管理による過払いの防止

これらの目的を認識せず、また、前述の環境変化にも対応せずにIT資産管理を放置し

表1 IT資産管理の目的

目的	行うべき管理
最新のIT資産・構成情報の把握によるコンプライアンスの確保	・ハードウェア・ソフトウェア（何が・どこに・どれくらいあるかなど）の最新構成・利用情報の管理 ・契約（保守・回線・ソフトウェアライセンスなど）の最新情報の管理 ・ソフトウェアライセンス媒体（インストールキー、CDキーなど）の最新情報の管理
セキュリティの確保	・セキュリティパッチの一括適用や、出所不明のソフトウェア利用の防止
過払いの防止	・ハードウェア・ソフトウェア・回線と、これらにひも付く契約（保守・リース・ライセンス・委託・回線などのサービス利用）との関係の定期的な棚卸し

ておくことは企業にとってさまざまなリスクの温床となる。具体例を次に挙げてみたい。

(1) コンプライアンスに関するリスク

前述したとおり、クラウドの浸透によって、ユーザー部門独自でソフトウェアを個別調達する機会が増えている。しかし、全社的にソフトウェアライセンス管理を十分行わないと、購入したライセンス数の超過使用などでライセンス違反を引き起こすリスクが存在する。また、グローバル化が進んでいる企業やM&Aを加速させている企業では「地域ライセンス」の範囲を超えてのライセンス使用も違反に該当するため、注意が必要だ。ライセンス違反を引き起こすと、多額の損害賠償（一般的に不足額の1.5倍程度の賠償額）のみならずライセンス監査対応コストが必要となるケースもある。さらには、ライセンス違反を引き起こすことで、会社として公正な調達ポリシーを守れないといった倫理規範問題に発展してしまう可能性がある。

(2) 情報セキュリティに関するリスク

情報セキュリティのリスクが年々増大していることは言うまでもないが、IT資産管理の中でも、特にソフトウェア資産の管理不足から情報漏えいのリスクが重要視されている。ソフトウェアの管理・把握ができていないため、脆弱性のあるソフトウェアを検知できず、結果的にそれがインストールされたPCなどから内部情報が漏えいするリスクが存在する。

(3) ITコストに関するリスク

ライセンスの利用実態を把握していないために、遊休ライセンスの存在に気づかないまま新規購入してしまうケースがある。加え

て、M&A先の企業が保有するライセンス情報を把握できず、集中購入することでボリュームディスカウントにつなげられる機会を損失している場合がある。

なお、IT資産管理に関するリスクは海外では広く認識されており、2001年に改訂されたITIL（IT Infrastructure Library：英国政府向けに開発されたITサービスマネジメントのガイドライン）バージョン2では「アプリケーション管理」の中でソフトウェアのライフサイクルマネジメントの必要性を提唱している。2006年に発行されたソフトウェア資産管理のプロセス管理に関する国際標準規格（ISO/IEC 19770-1）などがその一例である。

企業が抱えるIT資産管理の課題と対策

これらのリスクが忍び寄る中、多くの日本企業ではIT資産管理の見直しに対する取り組みが遅れている。その理由として大きく3つの課題が考えられる。ここでは、課題とその対策について考えてみたい。

(1) IT資産管理の不備がもたらすリスクの認識不足

例えば、多くの企業は情報漏えいのリスクを恐れ、情報セキュリティ対策に注力しているが、IT資産管理を重要視している企業はそれほど多くないように見受けられる。しかし、IT資産が適切に管理されていないと、企業に重大な損失を与える危険性がある。

一例を挙げると、2009年に某地方自治体において、ソフトウェア計約4,500本を購入

せず利用していたことが発覚し問題となった。このときの違反はソフトウェアベンダー側の指摘により発覚し、結果、約4,500本のソフトウェアライセンス費に当たる、約1億4,000万円をソフトウェアベンダーに支払うことで和解した。

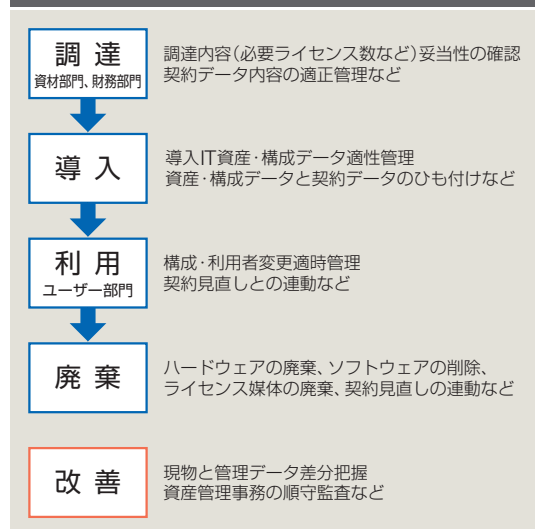
このように、IT資産管理の不備が、企業の経営レベルのリスクに直結することを、経営層に対して認識させる必要がある。

(2) IT資産のライフサイクル管理を行う仕組みが整備されていない

IT資産の調達から廃棄までさまざまなステークホルダー（利害関係者）が関与するにも関わらず、それぞれの情報がひも付けて管理されていないため、情報が散在してしまっているケースが多く見られる。

この課題には関連部署を巻き込む対策が必要である。ITのライフサイクル管理には調達部門やユーザー部門だけでなく、財務部門など多様なステークホルダーが関係するため、これらのステークホルダーに対して、IT資産管理の見直しに対する啓発活動をまず行

図1 IT資産ライフサイクル管理の留意ポイント



う必要がある。図1にIT資産のライフサイクル管理で留意すべきポイントを挙げる。

次に、調達したIT資産と契約金額を適切な管理粒度でひも付けて管理することが重要となる。管理粒度が粗ければ、ITの購入、利用から廃棄までの長いサイクルにおいて、資産を追うことが困難になる恐れがある。

(3) 構成管理を行う仕組みが整備されていない

「構成管理」とは、システムを構成するハードウェア、ソフトウェア資源とその環境を正確に管理することを指す。膨大な量に及ぶクライアントPCやスマートデバイス、さらにさまざまなソフトウェアを利用している企業ではこれらの棚卸しを人力で行い、属人的管理をすることは現実的に難しい。

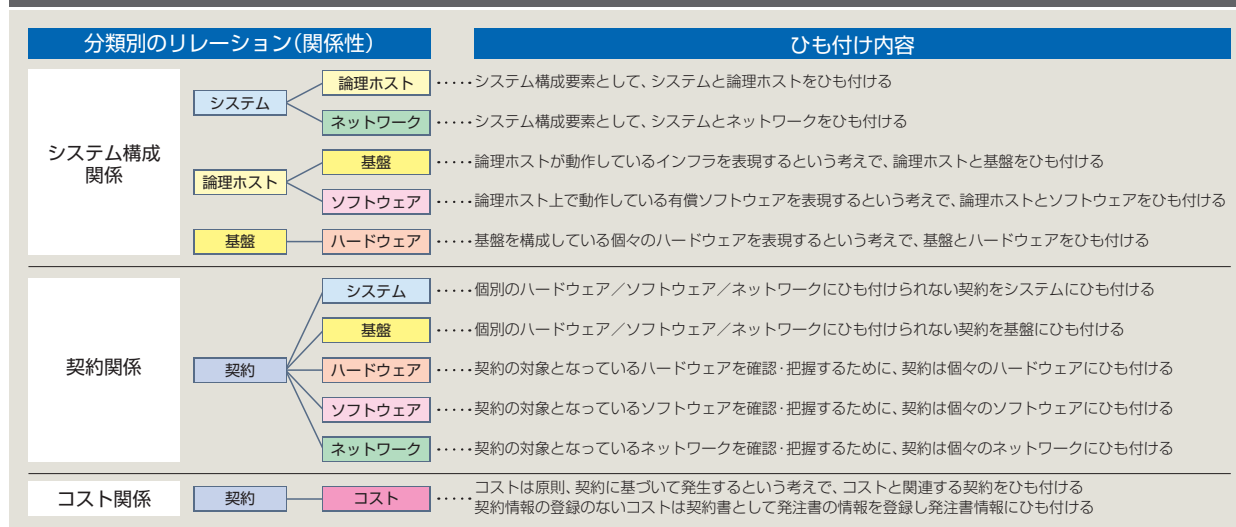
この課題解決のためには、まず自社としてのIT資産管理の目的を明確にすることが肝要である。なぜならば、目的によって、管理対象範囲も変わるからである。例えば、ITコストの適正化が目的であれば、IT資産のコスト情報を管理する必要がある。

次に目的と整合を持った管理データの定義を行い、定義の方針を明確にする必要がある。自社の管理目的に照らし合わせ、どんなデータを管理すべきかを明らかにする。留意すべき主な観点、管理単位（どう分類して管理すべきか）やリレーション（各構成・資産情報をどうひも付けて管理すべきか）などである（次ページ図2参照）。

ソフトウェア資産とライセンス契約は自動化で管理する

前述の「構成管理の仕組み」を整備する

図2 資産情報のリレーション（関係性）の例



際、自動化を視野に入れておくことが望ましい。その際、2つのライブラリが必要となる。ここで言うライブラリとは、社内のIT資産情報を取りまとめる台帳のようなイメージである。

1つ目は実際にインストールしているソフトウェアのインベントリ（種類、バージョン情報など）を収集し、正式な製品名に統一した「ソフトウェアライブラリ」である。ある程度のソフトウェアの管理は人力で行っても、実際にインストールしているソフトウェアのインベントリ収集を手作業で行うと多くの時間とコストを要してしまう。またソフトウェア名がバラバラだと、効率的に管理することができないため、ライブラリ内で正式な製品名に統一する必要がある。

2つ目は購入したソフトウェアのライセンス契約情報と、そのソフトウェアの利用規約とをひも付けて管理する「SKU（Stock Keeping Unit：最小在庫管理単位）ライブラリ」である。一般的に、同じソフトウェアであってもライセンス形態により利用規約が異

なるため、それぞれ分けて管理する必要がある。例を挙げるとパッケージ契約、包括契約、サブスクリプション契約（一定期間の使用権を購入する方式）などがある。

世界中に存在するソフトウェアの種類は約4～5万にも及ぶと言われている。多様で複雑なライセンス形態の管理には、自動化が不可欠と考える。

中長期的なIT資産管理の必要性

IT資産管理の課題を解決するには、経営レベルでのリスクの認識に加え、ライフサイクルの確立、自動化など、一朝一夕にはいかない。しかし、適切な管理を行うことで、セキュリティ向上の他、システムの信頼性の確保、開発・保守業務の効率性向上などさまざまな効果も期待できる。

このためにも企業としては3～5年の中長期的な計画を立て、IT資産管理に取り組んでいく必要があるということを理解しておくべきだろう。